

豊洲スマートシティ(豊洲スマートシティ連絡会)

1

■ 住民やワーカー、来街者など多様なステークホルダーが存在し、成長途上にある豊洲エリアにおいて、先進的技術と都市OS活用により様々な分野でサービス・ソリューションを提供し、個々人のニーズ充足と満足度向上、まちの課題を解決するとともに、多様な施設・個人が共存・共栄する「ミクストユース型未来都市」を実現する。

■ 位置図

対象区域



東京都江東区豊洲1~6丁目

■ 本事業全体の概要

豊洲に暮らし、働き、訪れる多様な人々に、
個々人のニーズを充足する次世代型のサービスを提供

インバウンド観光客

多言語環境での快適
で安全で驚きのある
観光体験を提供

日本人来街者

健康で楽しさが融合
した新たな都市サー
ビスの提供

ワーカー

Living Lab、効率的で
機能的なビジネス環
境を提供

豊洲住民

安心・安全で、健康と
楽しさが融合したライ
フスタイルの提供

■ 対象区域の概要

○ 名称: 豊洲エリア

○ 面積: 約246ha

○ 人口:

居住人口: 約 3.7 万人¹

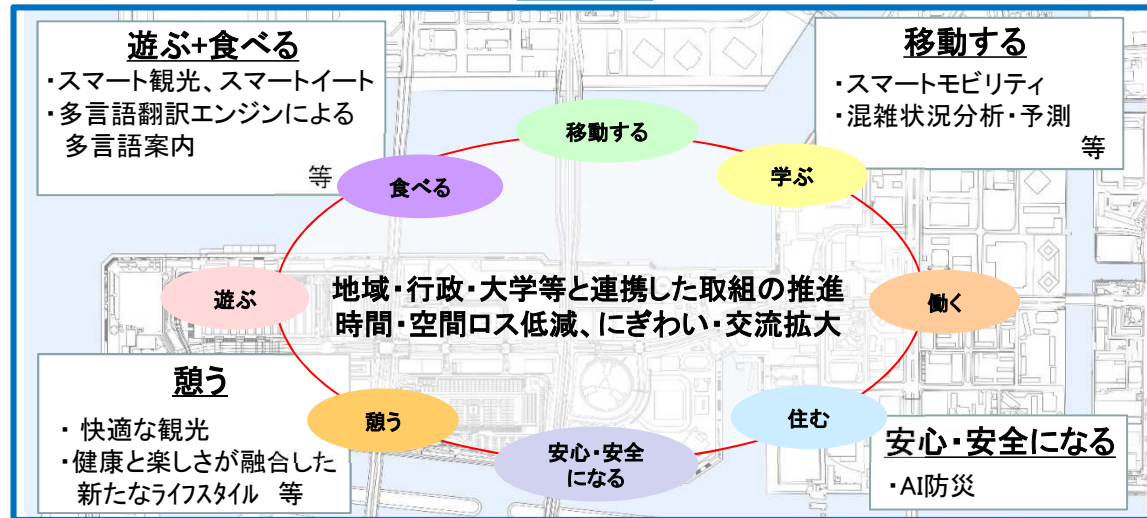
就業人口: 約 4 万人²

¹2019年1月時点 ²2018年時点

■ 対象区域のビジョン

① 課題解決+未来志向型
スマートシティ

② ミクストユース型
スマートシティ

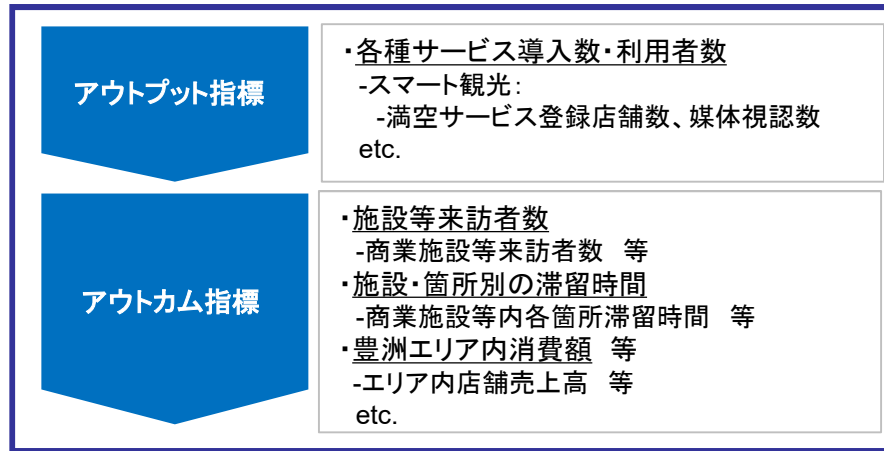


都市OS・データプラットフォーム

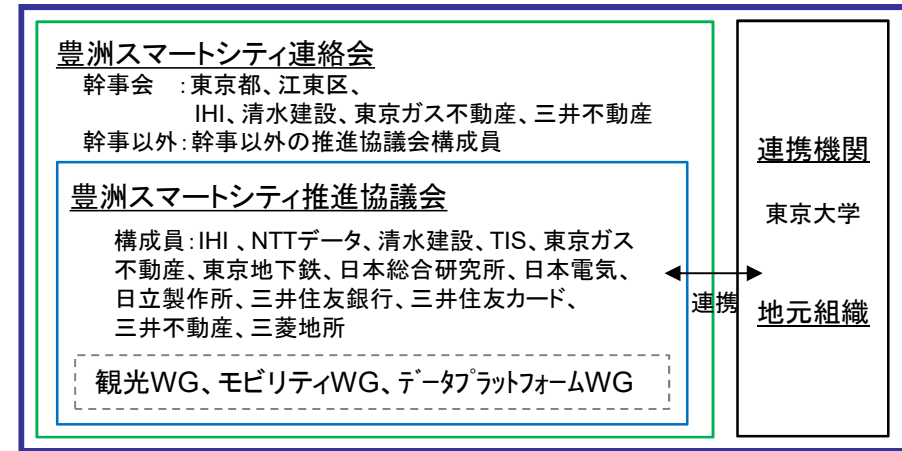
データ連携、プランニング、共通機能提供(認証・決済等)

◆バーチャル豊洲 + ◆交通データ基盤 + ◆情報銀行 ...

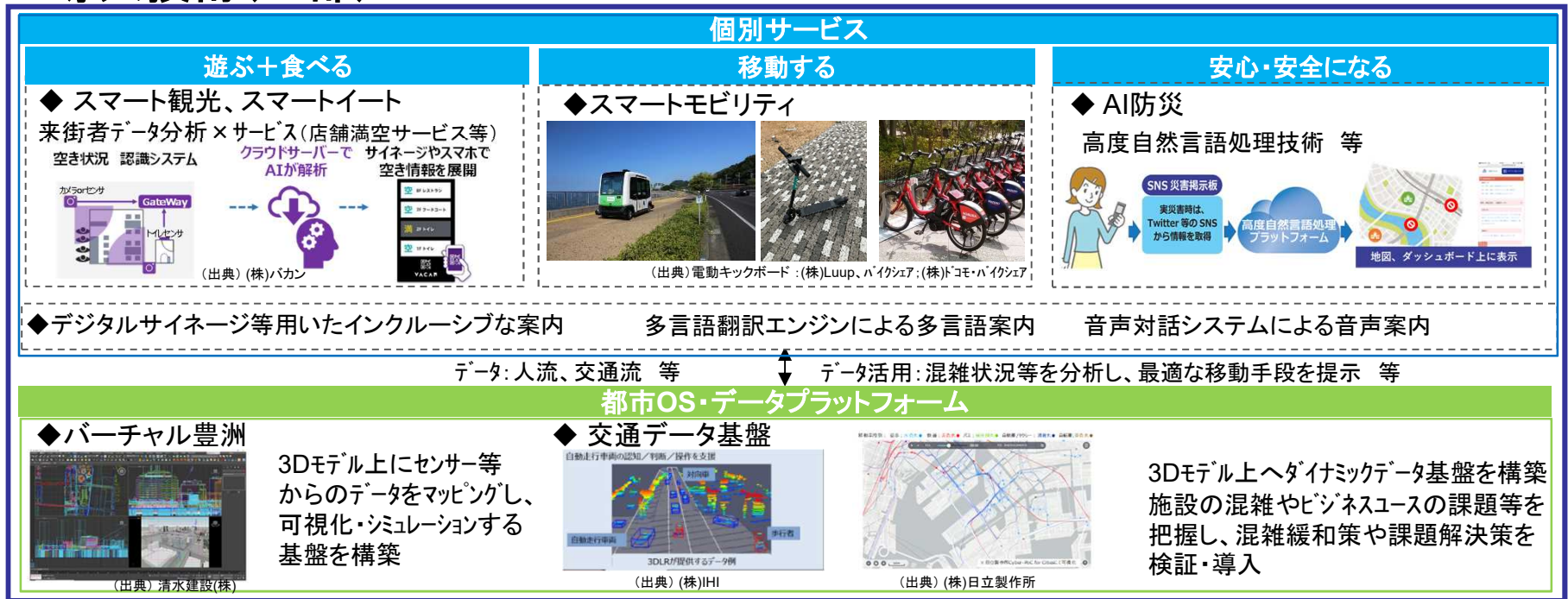
■ スマートシティの目標(KPIの設定)



■ 運営体制



■ 導入技術(一部)



■ 想定するビジネスモデル

・多様な受益者が豊洲では想定されるため、ビジネスモデルも多様となることが想定される。

都市OS・データプラットフォーム

個別サービス

受益者：住民（個人・法人）、ワーカー、日本人来街者、インバウンド観光客



個別サービス提供主体からの利用料

自治体
(東京都、江東区)

提供主体：
エリアオーナー
(民間)

広告収入等
サイネージ等

自己負担(賃料収入等から捻出)

満空サービス
AR観光案内、
インクルーシブナビ等

提供主体：
個別サービス提供者
(民間)

受益者負担

パーソナルモビリティ
サービス等



(注) 右記スケジュールにおいて社会実装後のビジネスモデルを想定

■ 想定スケジュール

黄色：実現可能性調査・システム構築

ピンク色：実証 ▲：社会実装

実施項目			スケジュール(年度)			
			2020		2021	2022
			上期	下期		
個別サービス (注1)	遊ぶ+食べる	満空サービス		▲	エリア拡大	
		AR観光案内			▲	
		キャッシュレス・関連サービス			△	一部実装完了
	移動する	パーソナルモビリティ			▲	
		オンデマンドモビリティ				
	憩う	ヘルスケア×エンタメサービス		▲		
	安心・安全になる	AI防災	豊洲住民向け			
			ワーカー等向け		△	実証完了、実装別途協議
	共通案内システム	インクルーシブナビ			▲	
		サイネージ			▲	
多言語案内				▲		
都市OS・データプラットフォーム	バーチャル豊洲(注2)					
	交通データ基盤(注2)					
※基盤構築、データ活用	情報銀行(注2)					
	エネルギーマネジメント			▲		

(注1)「住む・働く・学ぶ」に関しては検討中

(注2) 2023年度に実装予定

■ 将来イメージ図



次世代型交通結節点のイメージ図



※上記図は、導入しようとしている技術等を仮想の街並みに表現した将来イメージ図です。